

(2)地震の大きな揺れの後の知識		指導時期等						主な指導場面		
No	必ず身に付けさせたい事項	具体的指導内容			幼					
					低	中	高	中	高	特支
②	地震の大きな揺れにより、堤防などの施設が損傷することがある。	1) 堤防などの施設が損傷することがある。	○	→	◎	→	◇	→	☆	行
		2) これまでより少ない雨量で堤防などが損傷し、洪水となることがある。	○	→	◎	→	◇	→		行
		3) 排水施設の損傷により、これまでより少ない雨で浸水することがある。	○	→	◎	→	◇	→		行
		4) 震度5強以上を観測した地域は、大雨、洪水警報・注意報の基準を通常より引き下げることがある。				○	◎	→		行
③	地震の大きな揺れにより、地盤沈下や隆起などの変動がおきることがあることを知る。	1) 地盤沈下により、これまで海水の入らなかった地域へ海水が入り込むことがある。	○	◎	→	◇	→	☆	行	
		2) 高潮により、これまで以上に浸水の被害が起こる。	○	◎	→	◇	→	☆	行	
		3) 地盤沈下により、高潮警報・注意報の基準を通常より引き下げることがある。				○	◎	→		行

(3)地震に関する知識		指導時期等						主な指導場面			
No	必ず身に付けさせたい事項	具体的指導内容			幼						
					低	中	高	中	高	特支	
①	地震が起こるメカニズムと地震の特徴(本震後の余震)について知る。	1) 地震の発生する仕組みを理解する。				○	◎	◇		教	
		2) 大きな地震が発生すると、その近くで最初の地震より小さな地震が発生する。最初の大きな地震を本震、その後引き続き起こる地震を余震という。					○	◎	◇	☆	教
		3) 日本周辺には、北アメリカプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレート、ユーラシアプレートの4つが存在しており、日本は地震大国である。					○	◎	◇		教
②	地震の規模(マグニチュード)や揺れの強さ(震度)を示す尺度について知る。	1) マグニチュードは地震そのものの大きさ(規模)を表し、震度はある場所での地震による揺れの強さを表す尺度。				○	◎	◇		教	
		2) マグニチュードと震度は例えると電球の明るさと周りの明るさとの関係に似ている。電球の明るさをあわらす値がマグニチュード、電球から離れたある場所の明るさが震度に相当する。					◎	◇		教	
		3) マグニチュードは1増えると地震のエネルギーは32倍に増え、2増えると32×32=1024倍になる。					◎	◇		教	
		4) 震度5弱では大半の人が恐怖を覚え、震度6弱では立っていらなくなる。震度6強では、固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。					○	◎	◇	☆	教
		5) 震源からの距離が遠くても、地盤によっては震度が大きくなる。					○	◎	◇		教
③	地震に伴って発生する「複合災害」について知り、危険の予測と回避に役立てる。	1) 「複合災害」について理解する。				○	◎	◇		教・行	
		2) 自分が住んでいる地域で考えられる「複合災害」について理解する。					○	◎	◇		教・行
		3) 「複合災害」を予測した避難の仕方を考える。					○	◎	◇		教・行
④	揺れ始めたときの行動の仕方について、場所、時間毎に理解し、危険の予測と回避に役立てる。	1) 普段から、今ここで地震が発生したらどのように避難行動をすればよいかを考える。			○	→	◎	◇	☆	教・行	
		2) 自分が避難を誘導する立場だったら、どのように誘導すべきかを考える。						○	◎		教・行
		3) 避難訓練の場所や時間の設定を理解して安全に参加する。			○	◎	→	◇	☆	教・行	
⑤	緊急地震速報の仕組みについて知る。	1) 大きい地震が来る前には、緊急地震速報がテレビ、ラジオ、携帯電話などに流れる。	○	→	◎	◇	→	☆	教・行		
		2) 緊急地震速報は地震発生直後に、震源に近い地震計で捉えた観測データを解析して、震源や地震の規模を直ちに推定し、それに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を可能な限り早く知らせる地震動の予報及び警報である。						◎	◇	教・行	
		3) 緊急地震速報は地震発生後の地震波を捉えてから発表するものであることから、地震発生を予知するものではない。						◎	◇	教・行	
		4) 緊急地震速報を適切に活用するためには、その特性や技術的な限界を十分に理解する必要があること。						◎	◇	教・行	
⑥	宮城県で過去に発生した地震や津波の被害を知る。	1) 宮城県では過去に何度も大きな地震や津波被害を受けている。			○	◎	→	→			
		2) 過去の地震津波災害の被害について知る。			○	◎	→	→			

凡 指導時期: ○機会を捉えて指導する時期, →継続指導の時期, ◎重点的に指導する時期, ◇再確認させる時期  
 例 指導場面: 教=教科等, H=HR等, 行=学校行事, 部=部活動等, 日=日常

(1)大雨による被害		指導時期等					主な指導場面				
No	必ず身に付けさせたい事項	幼	小			中		高	特支		
			低	中	高						
⑤	大雨には、台風、低気圧、梅雨前線、秋雨前線によるものや局地的大雨などがあることを知る。	1) 台風は強い風とともに大雨を伴う。台風は積乱雲が集まったもので、雨を広い範囲に長時間にわたって降らせる。				◎	→		教・行		
		2) 低気圧は雨雲を伴っており、大雨を降らせたり強い風を吹かせる。				◎	→		教・行		
		3) 6月から7月に夏の温かく湿った高気圧と春の冷たい高気圧がぶつかり梅雨前線ができる。9月頃に温かく湿った夏の高気圧と冷たい秋の高気圧がぶつかり、秋雨前線ができる。それらが雨を降らせる。					◎	→		教・行	
		4) 秋雨前線は台風の時期と重なり、台風の温かく湿った風が前線を活性化させ、大雨を降らせる。					◎	→		教・行	
⑥	いつも気象情報に注意し、災害に備えておくことが必要であることを知る。	1) 気象台からは天気予報のほかに、警報や注意報などの気象情報が発表されている。				◎	→	→	☆	教・行	
		2) 警報・注意報の違いと発表の区域に注意する。				○	◎	→		教・行	
		3) 情報を把握することにより、災害による被害を回避したり、減少させることができる。					◎	→	◇		教・行
		4) 急な災害では、情報が間に合わないこともある。					○	◎	◇		教・行
		5) 天気図から気象の変化をある程度読み取る。					◎	→			教・行
		6) 雨量や水位のデータの入手方法を知る。					○	◎	→		教・行
⑦	避難の勧告や指示があったら速やかに従うこと。	1) 地域の災害情報に留意する。				○	◎	◇	→	☆	教・行
		2) 災害を過小に考えず、指示には速やかに従う。				○	◎	◇	→	☆	教・行
		3) 避難の時は、災害の状況を考慮し、避難方法等を考える。					○	◎	◇	→	☆
⑧	洪水が予測される時の避難について、避難場所や避難経路を家族で確認しておく。	1) 普段から、冠水したときを想定して危険な場所(側溝やマンホール等)を確認する。				○	◎	◇	→	☆	教・行
		2) 避難するときに持って行く物を事前に準備しておくことも重要である。				○	◎	◇	→	☆	教・行
		3) 洪水や土砂災害のハザードマップを正しく活用する。					◎	◇	→		教・行

(2)台風の知識		指導時期等					主な指導場面					
No	必ず身に付けさせたい事項	幼	小			中		高	特支			
			低	中	高							
①	台風により、被害が発生することを知る。	1) 台風の大きさや風の強さ、予想雨量などの情報とともに予想される災害についての情報に注意する。				○	◎	→		教・行		
		2) 台風が接近してから屋外に出るのは危険である。				○	◎	→	→	☆	教・行	
		3) 台風が遠くにあっても、高い波が打ち寄せることがあるので、海での活動には注意する。					○	◎	→	◇	☆	教・行
		4) 台風が遠くにあっても秋雨前線などを刺激して、大雨を降らせることがある。						◎	→		教・行	
		5) 台風の雲の中心部には、雲のない空洞部分(台風の目)ができ、その下では風が穏やかで、雨もほとんど降らず、青空が見えることもある。						○	◎	→		教・行
		6) 台風目の周囲には厚い積乱雲があるため、激しい暴風雨となる。						◎	→		教・行	
		7) 台風が通過した後にそれまでと大きく異なる風向から吹く強い風を台風の吹き返しという。						◎	→		教・行	
		8) 台風の吹き返しにより、災害が起こることもある。						◎	→		教・行	
②	台風の接近が予想される場合は、早めに備えをし被害を回避する。	1) 台風が近づいてからの作業はとても危険なので、早めに備えを完了しておく。				○	◎	→		教・行		
		2) 台風の被害を過小に予想してはいけない。					◎	→		教・行		
③	台風により潮位がとて高くなり、浸水することがあることを知る。	1) 台風や低気圧により潮位が高くなり、浸水被害を受けることがある。				○	◎	→		教・行		
		2) 海岸の地域では、天気予報とともに、潮位の変化にも注意する。				○	◎	→		教・行		